

海光電業のSDGs 9つの目標と取組み



3 すべての人に健康と福祉を

3. 全ての人に健康と福祉を

- ・健康診断の実施（年1回、全社員対象）
- ・AEDの設置（全事業所）
- ・健康と福祉活動の推進（予防接種、献血、ボランティア活動）



4 質の高い教育をみんなに

4. 質の高い教育をみんなに

- ・社内研修の実施（管理職研修、新入社員研修、交通安全・運転講習会、商品説明会）
- ・社外研修への参加推進（各種講習会、Webセミナー）
- ・資格取得の推進（電気工事士、安全衛生責任者他）



5 ジェンダー平等を実現しよう

5. ジェンダー平等を実現しよう

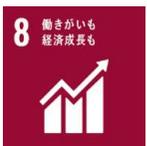
- ・産前産後休暇、育児休暇、介護休暇、育児復職支援
- ・女性管理職を2025年までに5%に引き上げ
- ・一般職から総合職への転職促進



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- ・太陽光発電事業の継続的拡大（特に自家消費型太陽光発電システムと当社独自開発のPCS制御装置の工事及びインドからコンパクトで低価格なカーボンフォームバッテリーの輸入販売により再エネ、省エネへの取り組みを更に促進する）



8 働きがいも経済成長も

8. 働きがいも経済成長も

- ・すべての従業員が共に喜び活躍できる「働きやすい職場環境づくり」に努め、働き甲斐のある人間らしい雇用を推進する事により社業の発展に繋げる。



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・太陽光発電事業を通じて再生可能エネルギーの普及に努め、Co2削減を目指す。



11 住み続けられるまちづくりを

11. 住み続けられるまちづくりを

- ・本業の電設資材販売を通じ、インフラ整備、まちづくりに貢献



12 つくる責任 つかう責任

12. つくる責任 つかう責任

- ・リサイクル、リユース、リデュースの推進
- エコキャップ運動の推進
- ケーブルドラムの再利用
- ケーブルの効果的な切断による廃棄物の削減



13 気候変動に具体的な対策を

13. 気候変動に具体的な対策を

- ・電力使用量の削減
- ・社用車の8/60はハイブリッドを導入。
- 2030年までに営業車両を全てハイブリッドまたは電気自動車に切り替える
- ・メーカーとの協力下で物流効率化を通じCO2排出量削減（共同配送便）

3 すべての人に健康と福祉を



3. 全ての人に健康と福祉を

- ・健康診断の実施（年1回、全社員対象）
毎年9月に実施、当日受けられない者は電設健保ヘルスピアまたは提携病院にて受診（現状100%）
メンタルヘルスチェック 年1回実施
- ・AEDの設置（目標 全事業所設置）
現在、本社、川崎に各1台設置済み、2022年より随時支店、営業所8拠点に設置予定
- ・健康と福祉活動の推進（予防接種、献血、ボランティア活動）
地域、近隣との調和・・・町内会盆踊りへの参加、清掃活動、防災訓練
- ・社員の健康促進（社員の健康は会社の健康）
サークル活動のススメ・・・野球、ゴルフ、フットサル、ダイビング他スポーツ系サークルへの参加
福利厚生施設の活用・・・箱根、伊豆高原保養所、電設健保保養所の利用
階段使用のススメ・・・エレベーターの使用を控え、階段を使用
階段に上り下りのカロリー表示（1階～3階 40段で4kcal消費）
分煙と禁煙のススメ・・・完全分煙による受動喫煙防止と禁煙の奨励



4 質の高い教育をみんなに



4. 質の高い教育をみんなに

- ・社内研修の実施
管理職研修、新入社員研修、交通安全・運転講習会、商品説明会等、定期的で開催
- ・社外研修への参加推進
各種講習会、Webセミナー、展示会への積極参加
- ・資格取得の推進
国家資格、技能講習認定取得（電気工事士、安全衛生責任者、AED認定講習他）
- ・SDGsの目標達成の為に必要な知識とスキルを磨く（メルマガ、グループウェアで情報発信）



5 ジェンダー平等を
実現しよう



5. ジェンダー平等を実現しよう

- ・産前産後休暇、育児休暇、介護休暇、育児復職支援
- ・女性管理職を2025年までに5%に引き上げ（2022年現在 1%）
- ・一般職から総合職への転職促進（2022年度 1名転職）
- ・男性の育児休暇支援（2022年度 1名実施）

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに

- ・太陽光発電事業の継続的拡大
(特に自家消費型太陽光発電システムと当社独自開発のPCS制御装置の工事)
及びインドからコンパクトで低価格なカーボンフォームバッテリーの輸入
販売により再エネ、省エネへの取り組みを更に促進する)

全ての人々が、手頃な価格で信頼性の高い持続可能で現代的なエネルギーを！

8 働きがいも
経済成長も



8. 働きがいも経済成長も

- ・すべての従業員が共に喜び活躍できる「働きやすい職場環境づくり」に努め、働き甲斐のある人間らしい雇用を推進する事により社業の発展に繋げる。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



9. 産業と技術革新の基盤をつくろう

- ・太陽光発電事業を通じて再生可能エネルギーの普及に努め、Co2削減を目指す。

環境に配慮した技術で、社会インフラ、産業の改善、整備を行う





12. つくる責任 つかう責任

- ・リサイクル、リユース、リデュースの推進

エコキャップ運動の推進

これまで各フロアばらばらに行っていたエコキャップ回収ルールを統一
各フロアにエコキャップ回収ボックスを設置。
一定量溜まった段階で回収業者に発送
フィードバックされたデータを検証し、外部発信（ホームページ等）

ケーブルドラムの再利用

現場から空ドラムを回収し再利用。再生が必要なドラムは業者に依頼して再生ドラム
としてリユース

ケーブルの効果的な切断による廃棄物の削減

川崎事業所では出来る限りロスが少ない効果的な切断を行い、廃棄物削減を行うと共に
段ボール、ペットボトル等リサイクル可能なゴミを除く全てのゴミをリサイクル業者に
依頼し、火力発電用の燃料としてリサイクルしている



13. 気候変動に具体的な対策を

- ・電力使用量の削減
- ・社用車の8/60台はハイブリッドを導入済み（約12%）
2030年までに営業車両を全てハイブリッドまたは電気自動車に切り替える
（本社ビル地下1階に急速充電器設置済み）
- ・メーカーとの協力下で物流効率化を通じCO2排出量削減（共同配送便）

